

# えだまめ病害虫防除暦

防除基準（登録薬剤）

※2023年12月20日時点での登録をもとに作成

防除時期		対象病害虫	登録薬剤名	希釈倍率・使用量	水100ℓ <sup>※</sup> 当り薬剤量	使用時期	使用回数 (本剤または同一成分を含む剤)	使用方法	農薬成分名	RAC コード	備考
病害虫	播種前	ネキリムシ類・アブラムシ類・タネバエ・フタスジヒメハムシ・萎疫病、苗木枯病(ピシウム菌)、紫斑病、リソクトニア根腐病、黒根腐病	クルーザーMAXX	原液8ml/乾燥種子1kg		は種前	どちらか1回	塗沫処理	チアマトキサム フルジオキシニル メタラキシルM	I:4A F:12 F: 4	500mlで1.8ha分 効果は30日程度。ハ、キンバトによる食害忌避にも登録あり。 <b>使用量が微量のため薬量に注意して下さい。</b>
		ネキリムシ類・アブラムシ類・タネバエ・フタスジヒメハムシ	クルーザーFS30	原液6ml/乾燥種子1kg		は種前		塗沫処理	チアマトキサム	I:4A	500mlで2.5ha分 効果は30日程度。 <b>使用量が微量のため薬量に注意して下さい。</b>
センチュウ対策	定植前	ダイズシストセンチュウ	ネマキック粒剤	20kg/10a		は種又は定植前	1回	全面土壌混和	イミシアホス	I:1B	茶豆のセンチュウ対策
		ダイズシストセンチュウ	ラグビーMC粒剤	20kg/10a		は種又は定植前	1回	全面処理土壌混和	カズサホス	I:1B	秘伝など茶豆より後にとれる品種のセンチュウ対策
害虫	定植時、は種時	タネバエ、ネキリムシ類	カルホス微粒剤F(劇)	6kg/10a		は種時 定植時	1回	土壌表面散布 土壌混和处理	イソキサチオン	I:1B	タネバエはは種時のみ適用
病害	6月下～ 9月中旬	灰色かび病・菌核病	ロブラール水和剤	1,000倍	100g	収穫30日前まで	3回以内	散布	イプロジオン	F: 2	使用は開花前まで。 収穫前30日を厳守する。
		紫斑病、莢汚損症	ゲッター水和剤	1,500倍	66g	収穫7日前まで	3回以内	散布	ジエトフェンカルブ チオファネートメチル	F:10 F: 1	開花期から2回散布する。
		萎疫病、べと病	ランマンフロアブル	1,000倍	100ml	収穫3日前まで	3回以内	散布	シアゾファミド	F:21	
		べと病	アミスター20フロアブル	2,000倍	50ml	収穫前日まで	3回以内	散布	アゾキシストロビン	F:11	
		べと病・斑点細菌病	クブロンシールド	1,000倍	100ml	—	—	散布	塩基性硫酸銅	F:M01	野菜類で登録
		萎疫病、葉焼病、斑点細菌病、べと病	フェスティバルC水和剤	600倍	166g	収穫前日まで	3回以内	散布	ジモトルフ 塩基性塩化銅	F:40 F:M01	
		葉焼病	バリダシン液剤5	500倍	200ml	収穫7日前まで	3回以内	散布	バリダマイシン	F:U18	
		赤かび病	セイビアフロアブル20	1,000倍	100ml	収穫前日まで	3回以内	散布	フルジオキシニル	F:12	
害虫	7月上～ 9月上旬	カメムシ類、マメシクイガ、フタスジヒメハムシ、シロイチモジマダラメイガ、ハスモンヨトウ、ウコンノメイガ、ダイズサヤタマバエ、ツメクサガ	トレボン乳剤	1,000倍	100ml	収穫14日前まで	2回以内	散布	エトフェンブロックス	I:3A	
		カメムシ類、マメシクイガ、フタスジヒメハムシ	アグロスリン乳剤(劇)	2,000倍	50ml	収穫7日前まで	3回以内	散布	シベルメトリン	I:3A	
		カメムシ類、ダイズサヤタマバエ、アブラムシ類、ハモグリバエ類(フタスジヒメハムシ)	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	50g	収穫7日前まで	2回以内	散布	ジノテフラン	I:4A	フタスジヒメハムシは3000倍で登録
		ウコンノメイガ、オオタバコガ、ハスモンヨトウ、ハモグリバエ類、マメシクイガ、フタスジヒメハムシ、ハダニ類	グレーシア乳剤	2,000倍	50ml	収穫前日まで	2回以内	散布	フルキサメタミド	I:30	
		マメシクイガ、ハスモンヨトウ、オオタバコガ、ウコンノメイガ	プレバソフロアブル5	4,000倍	25ml	収穫3日前まで	3回以内	散布	クロラントラニリプロール	I:28	
		ハスモンヨトウ	マトリックフロアブル	2,000倍	50ml	収穫前日まで	3回以内	散布	クロマフェノジド	I:18	
		カメムシ類、ハモグリバエ類、マメシクイガ	マラソン乳剤	1,000倍	100ml	収穫7日前まで	3回以内	散布	マラソン	I:1B	豆類(未成熟)で登録
		ハダニ類、アザミウマ類、アブラムシ類、コガネムシ類		2,000～ 3,000倍	33～50ml						
		ハダニ類	コテツフロアブル(劇)	2,000倍	50ml	収穫前日まで	2回以内	散布	クロルフェナピル	I:13	豆類(未成熟、ただし、さやいんげん、さやえんどう、実えんどうを除く)で登録
		ハダニ類・チャノホコリダニ	ダニトロンフロアブル	1,000倍	100ml	収穫7日前まで	1回	散布	フェンピロキシメート	I:21A	豆類(未成熟、ただし、さやいんげんを除く)で登録
		ハダニ類	コロマイト乳剤	1,500倍	66ml	収穫前日まで	2回以内	散布	ミルベメクチン	I: 6	豆類(未成熟)で登録
展着剤		ワイドコート	3,000～10,000倍	33～10ml			添加	フオアアルセルホコバク酸ナドアブソ ポリオキシエチレンアルキルエーテ	—	野菜類で登録	

留意事項  
・ハダニ類は高温乾燥の時期に発生が多くなるので注意する。

## 除草剤について

適用雑草	登録農薬	10a薬剤使用量	10a希釈水量	使用時期	使用回数	使用方法	農薬成分名	RAC コード	備考
一年生雑草	コダールS水和剤	225～300g	70～100ℓ	は種後出芽前 (雑草発生前)	1回	全面土壌散布	フロメトリン S-メトラクロール	H: 5 H:15	※翌年復田予定地では使用しない 砂土除く
一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	ナブ乳剤	150～200ml	100～150ℓ	雑草生育期イネ科雑草3～5 葉期(但し、収穫14日前まで)	1回	雑草莖葉散布 又は全面散布	セトキシジム	H: 1	イネ科選択性除草剤 ※翌年復田予定地では使用しない 豆類(未成熟)で登録
一年生イネ科雑草	ホーネスト乳剤	75～100ml	100～150ℓ	雑草生育期イネ科雑草3～5 葉期(但し、収穫14日前まで)	1回	雑草莖葉散布 又は全面散布	テブラロキシジム	H: 1	イネ科選択性除草剤
一年生雑草	ザクサ液剤	300～500ml	100～150ℓ	収穫14日前まで (雑草生育期 播種・定植前 又は畦間処理)	3回以内	雑草莖葉散布	グルホシネートPナトリウム塩	H:10	非選択性除草剤

## 適正管理対策

1. 病害虫の発生状況・予察に留意しながら予防・発生初期防除を心がける。
2. 適正な栽培密度とし、通風・作業性の改善を図る。
3. 圃地の適正な排水管理を行う。
4. 病害虫の温床となる罹病株また雑草は、病害虫の発生時期を考慮し随時除去する。
5. ドリフト軽減ノズルや防薬ネット等を出来る限り使用する。

## RACコード

- ・農薬ごとの作用性を分類したものを「RACコード」といい、製品ラベルなどに表示されています。
- ・農薬による耐性・抵抗性は、同一農薬、同一系統の薬剤の連用がその発生要因であると考えられています。
- ・RACコードが同一であれば、有効成分が異なっても同一系統の薬剤なので、連用は避けなくてはなりません。

## 防除器具の洗浄不足対策

- ・防除器具は、前回散布後にじゅうぶん洗浄したか確認し、散布当日も薬剤調製前にもう1度通水し洗浄しましょう。
- ・防除器具は使用後、通水で3回以上洗浄しましょう。
- ・洗浄水は川や下水等に流さないようにしましょう。